

# 牛庭原の入植者たち



## 愛媛開墾人

旧松山藩（愛媛県）士族が入植したのは、牛庭原（現在の郡山市安積町牛庭地区）である。

明治14年（1881）7月に愛媛県が安積郡への入植者を募集したところ、50戸の応募があった。愛媛県は上申書に名簿を添付し、福島県へ照会文を送付したところ、受け入れ対象は10戸から15戸であるとの返書であった。同年12月に15戸の人選を定め、福島県の移住入植の許可を得た。明治15年（1882）3月21日に7戸29名が松山を出発し、同年4月10日に福島県へ到着届を提出している。明治17年（1884）までに全員が入植した。

## 牛庭原の入植者たちー 東京府開墾人

い い だ さ だ い ち  
飯田定一は、開成山農学校の教師であったが、農学校廃校後に牛庭原へ入植した。御家人だった定一は、明治に入り駒場農学校に奉職した。駒場農学校から、明治14年4月22日付けで福島県雇となり、開成山農学校の実習教師を勤めた。定一は、入植地で西洋農具を使用した農法を行い、開墾に成功している。

定一と同じく開成山農学校で教壇に立った一人に、齋藤万吉がいる。万吉は後に日本の農業経済学の草分けとなった。定一は自らの農業経営の記録を提供するなど、万吉の研究に協力した。

大川鑄之助は勸農局農学校（後の駒場農学校）を卒業後、明治14年3月21日付けで、福島県等外三等出仕、開拓課勤務となった。その後牛庭原に入植している。明治22年（1889）から大槻村桑野村組合村長を勤めた。

田中利助は、県庁文書などによれば松山藩出身とあるが、東京在住で、内藤新宿試験場に勤務した。種芸栽培の技術があったとされる。明治17年（1884）1月に牛庭原に入植した。

飯田定一と田中利助は、甘藷（さつまいも）栽培を広げている。定一が、駒場農学校の恩師である船津伝次平より甘藷の種芋を貰い受け、利助がこれを育成させた。甘藷生産は、開拓地から一般農家へと広がっていった。

## 牛庭原の入植者たちー 一步園前田農場

あ り ま よ り つ ね  
旧久留米藩主有馬頼萬が、開墾地を借り受けていたが、開墾せずに返還となった。この牛庭原、大谷地原を政府高官の前田正名が借り受け、開墾事業を行った。正名は、各地で開墾を行っており、開墾地を総称して「一步園」と名付けている。牛庭原・大谷地原の開墾もそのひとつである。

近隣の農民を小作人に雇い、開墾を進めたが、なかなか成果があがらなかった。また小作料をめぐる争議も起こった。融資金の抵当であった牛庭原・大谷地原の開墾地は、明治38年（1905）に勸業銀行福島支店の青木金治に渡った。大正3年（1914）に福島の大島要三に渡し、「大島農場」となる。



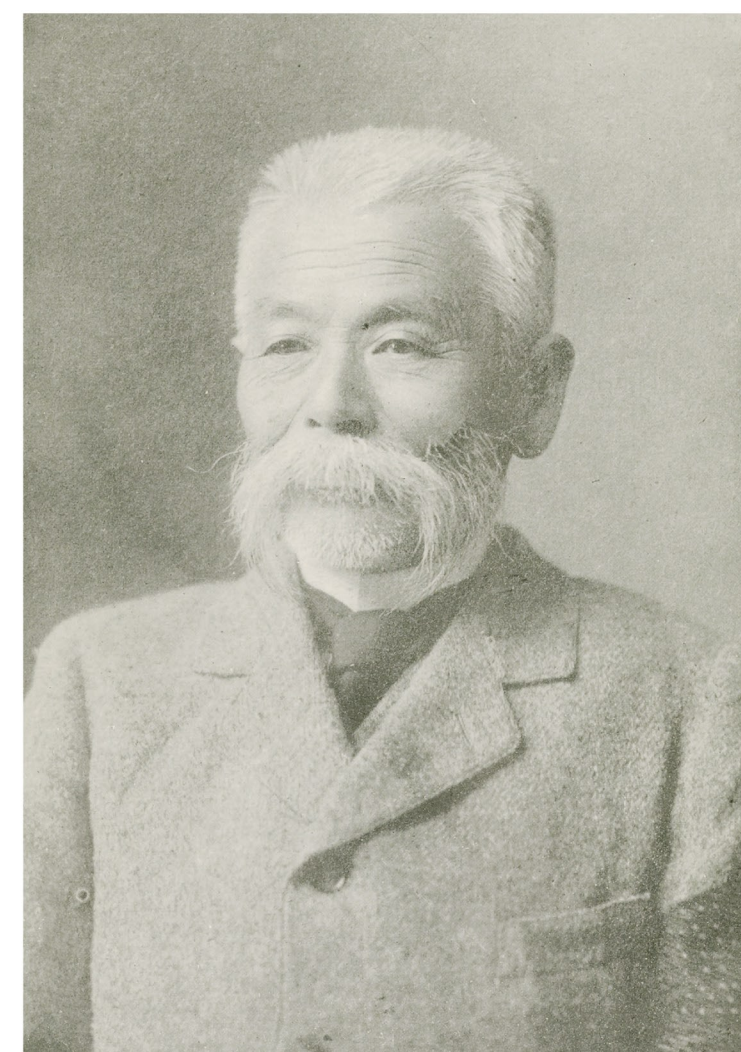
大久保神社（故内務卿大久保公追遠碑）  
安積公民館牛庭分館（郡山市安積町牛庭）脇に建立された碑。  
かつて大久保利通を祀る神社が設けられていたことから、今も「大久保神社」の名が残る。



開成山農学校第二回卒業式記念  
立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵  
開成山農学校教諭時代の飯田定一（左）が写る。同じく教諭の齋藤万吉（前列右から3人目）、牛村一氏（後列右から3人目）の姿もある。立岩一郎の養子で卒業生の立岩農作（前列右から4人目）も写る。

自今開拓課之事  
明治十四年三月廿一日 福島県  
宮内省等外三等出仕 大川鑄之介  
福島県等外三等出仕申付候事 福島県  
明治十四年三月廿一日 大川鑄之介

大川鑄之介福島県出仕  
「自明治六年 至明治十五年 福島開拓沿革誌 開拓掛」興行文書  
（福島県歴史資料館蔵）より抜粋



ま え だ ま さ な  
前田正名  
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」(https://www.ndl.go.jp/portrait/)